

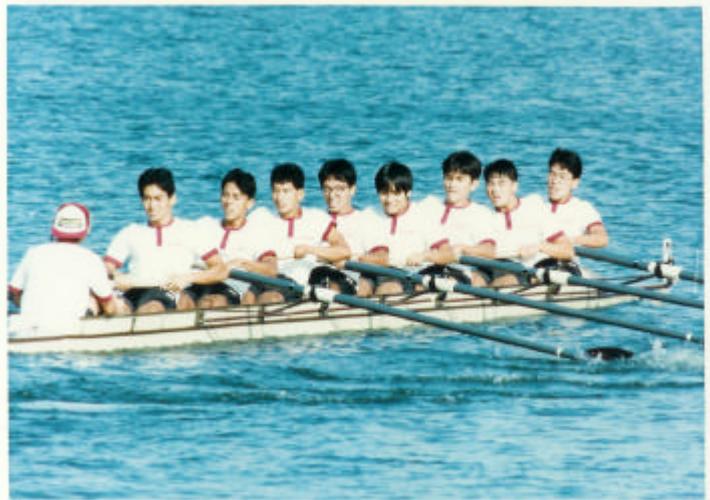
平成6年度卒



新人合宿一発芸大会 於・荻野

とにかく脱げば再試を免れるという噂が流れ、彼は脱いだ。が、やはり面白くないと駄目、と再々試を先輩部員に宣告されたのが写真中央のN君。消極的な芸への姿勢が、P君とのチームワークを乱し、受けない芸を生み出してしまったのだ。「ただ脱げばいいわけじゃない、もっと積極的に、もっと貪欲に脱ごう」。P君と共にそう考えたN君は、初日には強制されていたはずのことを、最終日にはむしろ進んでやるようになっていた。この合宿で主体的に動くことの喜び、チームワークの大切さを学んだN君は、以後立派なボート馬鹿へと進化を遂げた。

若かりしころの我々、Jrクルー。今と風貌が全く違う人が多い……。ユニホームがちょっと古くさい。まだ、戸田の生活になれていない。



第32回 全日本新人選手権划艇大会
平成3年10月4-6日 芦田オリンピックコース

3年生になる直前の春合宿中、合宿所の前で撮影されたもの。どういう流れでこの写真が撮られたのかはよく分からない。他の代の方々同様、我々にとってもこの合宿所は実に思い出深い場所である。目を閉じれば、様々な合宿所の風景が蘇ってくる。-----なかなか閉まらない引き戸。汗が染み込んで真っ黒になった布団。休憩中に聞いた薬師丸裕子のベスト。プロテイン。残飯を漁りに来るゴキ、ネズミ、それを追う猫。オフシーズン中、ここを基地化していたガキ共。そのガキ共がまき散らしてしまったために失われた字牌。そのガキ共を本気で怒鳴りつける俺（オフも住処にしていたから）。なぜか相棒のウインドブレーカーを着ていた浮浪者。トイレは使用不可で、駅か艇庫まで行かねばならない。夜中の下痢に見舞われた輩は、真冬であろうとトイレトペーパーを片手に盗んだバイクで走り出す、のであった。。-----初めて訪れるうぶな女子マネ達、例外なく絶句するような合宿所ではあったが、我々にとっては忘れがたい、思い出に満ち満ちた第二の故郷とも言える場所である。ちなみに写真中人物のうち、現在妻帯者6名、以前妻帯者2名、ハゲ2~3名、百キロ1名、行方知れず1名。十年一昔。確かに、隔世の感は否めない。。





軽量級決勝進出をはたし、ポーズを決めるクルー。1つ上の先輩と一緒に写る。3年生で脂ギッシュなころ。



3年生軽量級の試合後
全力を尽くしたクルーは皆ヒーローだった。そしてギャルにモテモテ。「もてるために蹴れ」それが僕らの合い言葉だった。



合宿の無い時期に皆で旅行することもよくあった。スキー&酒、海水浴&酒、温泉&酒といったパターンで、メインはお酒だったような気がする。この写真は、3年初夏に前後の代のボート部員とともに、鬼怒川の温泉へ恥を曝しに出掛けた際の一コマ。ちなみに、最前列の二人以外がボート部員。船頭の竿捌きに、「バウサイ弱いよ」と言ってしまったボート馬鹿多数。ところで、我が代においては、今なお年一度のボート部旅行が実施されている。例年の企画では、多数の野蛮な元ボート部員の意見を考慮して、山登りや自転車ツアーなど、汗の出るマソイベントをセットにせざるをえなかったが、今年は何故か温泉でのんびり&酒にしようという意見が主流であった。最近、我々の間でも「翌日になっても疲れが取れない」とか、「酒が抜けにくくなった」など、明日を知らぬ現役オアーズメンであった当時には考えられない、弱気な発言が目立つようになった。来年以降、ボート部旅行の路線軟化は必至であろう。隔世の感はやはり否めぬ。

4年のインカレ終了時の写真。

このあと、かなり飲んだ記憶があるような、ないような。しかし、長塚は顔が変わらないな。当時から老け顔だったのか？

